

令和7年度版
坂戸市
環境教育プログラム



坂 戸 市
坂戸市教育委員会



目 次

1 坂戸市が目指す環境教育

1-1 小・中学校における環境教育	1
1-2 学校における環境教育の進め方	1
1-3 家庭や地域と連携した環境教育	2

2 環境教育プログラム

2-1 学校・教育委員会(学校教育課)・市(環境学館いずみ)の役割 . . .	3
2-2 環境教育プログラムの活用方法	4
2-3 プログラムメニュー一覧	7
2-4 小学校の関連教科及び単元に係るプログラム一覧	8
2-5 小学生用プログラムメニュー	9
2-6 中学生用プログラムメニュー	15
2-7 小・中学生共通プログラムメニュー	18
2-8 外部講師派遣プログラムメニュー	20

3 環境関連情報

3-1 環境学館いずみの概要	21
3-2 こどもエコクラブについて	24

4 その他

○ 坂戸市環境教育プログラム申込書	25
○ 坂戸市環境教育プログラム実施報告書	26
○ パックdeはがき物品借用申請書	27



1 坂戸市が目指す環境教育

1-1 小・中学校における環境教育

豊かな環境を維持しつつ、持続可能な発展ができる社会を構築するためには、児童・生徒一人一人が、知識だけでなく体験活動を通じ、環境に対する理解と関心を深め、具体的な行動に結びつけられるような環境教育を推進することが重要です。

こうした中、学校における環境教育を充実させる内容等を盛り込んだ「環境教育等による環境保全の取組の促進に関する法律」の施行や「持続可能な開発のための教育（ESD）」に関する国際的な動向など様々な施策及び取組がなされています。

持続可能な社会への変革に向けた環境教育の果たす役割は、更に大きくなっていることから、プログラムの充実と活用により、児童・生徒が環境の大切さを実感し、ウェルビーイングの向上に繋がるよう、学校・教育委員会・行政（環境部門）が連携し、環境教育の推進に努めます。

1-2 学校における環境教育の進め方

(1) 環境教育の展開の視点

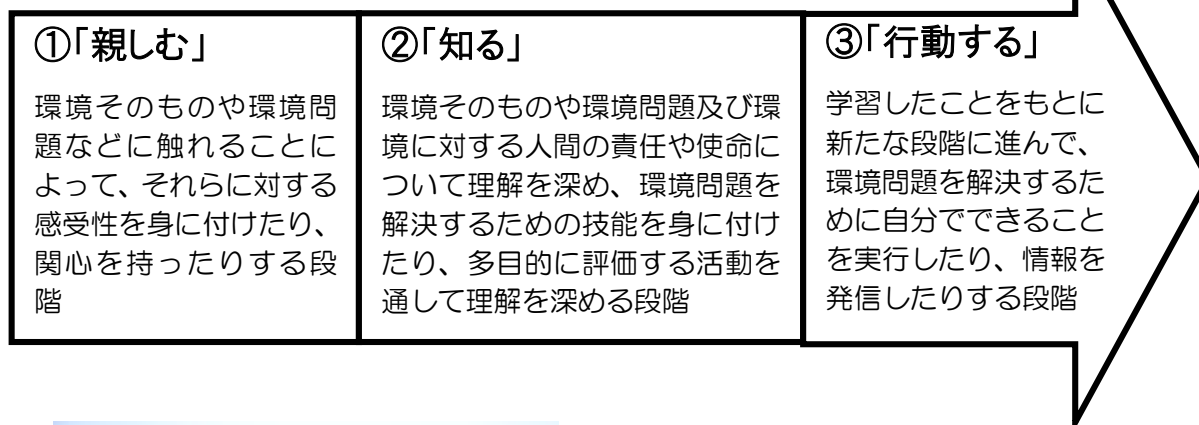
環境教育は、総合的・横断的な特色を持っていることから、学校や地域の実態等に応じ、主体的な学習が期待されています。実施にあたっては、「各教科」、「特別の教科道徳」、「特別活動」及び「総合的な学習の時間」などのねらいと内容を次の3つの視点から検討するとよいでしょう。これらの視点を一単位時間の授業や一単元に全て盛り込むのではなく、児童・生徒の実態や、学年、教科等の特性などから、教育課程全体を見通すことが必要です。

環境から学ぶ (from)	豊かな自然や身近な地域社会の中で、様々な活動を通して、自然に対する豊かな感受性や環境に対する関心を培う。
環境について学ぶ (about)	環境や自然と人間とのかかわり、さらには、環境問題と社会経済システムのあり方や生活様式とのかかわりについて、理解を深める。
環境のために学ぶ (for)	環境保全や環境の創造を具体的に実践する態度を身に付ける。



(2) 環境教育の3つのステップ

環境教育をある程度まとまった時間で実施する場合は、「親しむ」・「知る」・「行動する」、この3つのステップを順に踏むことで、より環境に対する理解と実践的な行動力を育てることができます。



1-3 家庭や地域と連携した環境教育

環境教育で学んだことを実践し、生活の中の環境学習に関する情報を得るためには、子どもたちの生活の場である家庭や地域社会との連携が欠かせません。

子どもは家庭の中で、基本的な生活習慣や身近な自然とのふれあいなど、さまざまな体験を通して社会性を身に付けていきます。

また、地域社会には、年齢、職業、価値観の異なった人々が日常生活を営みながら、同時に自治会や子ども会といった共通の目的を持ったグループを構成しており、地域を住みよくするためにごみや資源物の回収を行い、祭りなどの伝統行事、道路や公園の美化活動などを集団で実施しています。

つまり、家庭や地域は子どもたちの環境に配慮した行動の実践の場であり、自然環境や社会環境・伝統文化を学ぶ場そのものです。さらに、幼稚園・保育園・学校からみると、子どもたちが環境教育で学んだことを積極的に発信していく場としても重要です。

このことは、家庭や地域の人々から学校等への信頼が得られると同時に、市民一人一人の意識を改革し、循環・共生・参加型社会を築いていく上で大切なことです。

2 環境教育プログラム

2-1 学校・教育委員会(学校教育課)・市(環境学館いずみ)の役割

(1) 学校の役割

学校では、環境教育の重要性を考慮し、環境教育の一層の推進を図るため、環境教育プログラムを積極的に年間指導計画に位置付け、授業において環境プログラムを利用することに努めます。



【指導上の留意点】

指導者が環境教育の重要性と意義や方向性を理解し、それぞれの教科・領域での指導内容を環境教育の視点で見直し、積極的な活用をすることが望めます。

環境教育のねらいの一つは、児童が自分自身を取り巻く全ての環境に関する事物・現象に対して、興味・関心をもち、意欲的に関わる中で、環境に対する豊かな感性を育み、問題解決の課程を通して環境や環境問題に関する見方や考え方を育むとともに、持続可能な社会の構築に向けて積極的に参加・実践する力を育成することにあります。そこでは、児童の感性や感覚を大切にし、体験を通して児童が問題を見つけ、よりよい解決へ向けて自らの活動を制御していくような指導の工夫が求められています。

自然や社会の中で自発的な遊びや体験を通じて、児童が事象の面白さやすばらしさを感じ取り、自然や社会を大切にしようとする心を育てていくことが重要です。

(2) 教育委員会(学校教育課)の役割

教育委員会は、市内小中学校における環境教育推進のための指導や助言、市と協力した環境教育に関する啓発を行います。

市内小中学校における環境教育の実施状況について評価を行い、環境政策課及び環境学館いずみと連携を図りながらプログラムの充実に努めます。

(3) 市(環境学館いずみ)の役割

環境学館いずみが環境教育の窓口となり、学校教育課と連携を図りながら、学校現場における環境教育の推進と充実に努めるため、積極的な支援と情報提供に努めます。

環境学館いずみの活用を図るため、プログラムの充実に努めるとともに、環境教育にかかる教材の提供及び講師の派遣を行います。(環境学館いずみが担当するプログラムについては、いずみ運営ボランティアによる協力体制を整え実施します。)

教育委員会と協力し、教員やPTAに対し、環境教育の研修を実施します。また、学校現場の意見を参考に、教育委員会と協力し、環境教育の評価・分析及びプログラムの見直しなど必要な対応を行います。

2-2 環境教育プログラムの活用方法

(1) 特徴

① 坂戸市オリジナルのプログラム

このプログラムは、小学校1年生から6年生を主な対象として、生活科、総合的な学習の時間・社会科及び理科の授業での活用を目的に、学校の先生、教育委員会及び市環境部（当時）職員が共同で策定し、平成16年度から実施している坂戸市オリジナルのプログラムです。

② 学年・教科等に応じた自由なプログラムの選択

プログラムは、大きく「理科系」と「社会科系」にまとめました(P8)ので、それぞれの教科・領域、時間などを十分踏まえたうえで、学習のねらいや対象年齢などから、適当なプログラムを選択し、必要に応じてアレンジして活用してください。また、参考として学校での関連教科の単元も掲載しています。

③ 環境学館いずみを活用した環境教育

プログラムは、環境学館いずみの活用を中心としたものですが、必要に応じて、学校への出前も行います。また、環境政策課やいずみの職員が指導者となりプログラムを行います。その他、教材の提供や支援等について、学校現場で活用しやすいよう配慮しています。



(2) 環境教育の窓口等

① 環境教育に関する窓口

課 名	電 話	内 容
環境学館いずみ	284-7115	環境教育プログラムの申込窓口・相談 施設の利用、情報提供、教材の提供及び貸出し
学校教育課 (教育センター)	283-1331 (281-2736)	環境教育推進の指導、助言、相談、学校と市の調整

② 環境に関する相談窓口

課 名	電 話	業 務 内 容
環境政策課	283-1331	環境全般、地球温暖化、再生可能・省エネルギー、 緑化推進、放射線、公害、環境調査、不法投棄、 鳥獣保護及び管理
環境学館いずみ	284-7115	展示、講座、こどもエコクラブ、図書、情報
廃棄物対策課	283-1331	ごみの減量・分別・リサイクル

(3) 授業実施までのフロー

環境教育に関する指導計画作成及び校内調整
日程・授業内容・実施場所・バスの利用等



※注意：市との事前協議は、必ず1か月前までにお願いします！

事前協議（環境学館いずみへ電話）
日程・授業内容・実施場所・バスの利用等
※TEL 284-7115



環境学館いずみにて担当課（外部講師）と調整
日程・授業内容等内部調整を行い、再度学校
へ連絡します。



申込：環境学館いずみへ申込書【P25】を提出
学校長名で申込み、押印不要
※FAX又はメール可



環境教育プログラムによる授業実施



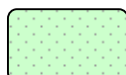
授業の報告
報告内容：授業の評価・改善点・要望
報告方法：実施報告書【P26】を環境学館いずみへ提出
※FAX又はメール可

バスの利用

環境学館いずみなどへの交通手段として、予算の範囲内で借り上げバスを用意しますので、ご相談ください。

原則、各学校につき年度1回限りのご利用をお願いします。予算がなくなり次第終了となります。

バスの利用開始可能時期は5月上旬以降を予定しております。



…学校側の手続き等

(4)プログラム実施の様子

「ごみについて学ぼう！」



「環境って何？（環境問題入門）」



「生き物自然観察」



「エネルギーと環境問題」（坂戸ガス株）



1 時間目

天然ガスの基礎知識と液体窒素（ -196°C ）を用いた冷熱実験を体験します。

2 時間目

環境問題と未来のエネルギーについてお話します。



2-3 プログラムメニュー一覧

(1) 小学生用プログラムメニュー

No.	プログラム名	学 年	時間	場 所		対 象		備考	該当ページ
				いすみ	学校	クラス	学年		
1	環境って何？(環境問題入門)	1～6	45分	○	○	○	○		P 9
2	ごみについて学ぼう！	3～6	45分	○	○	○	○		P 10
3	生き物自然観察	1～4	90分	○	○	○	○	・実施場所は相談に応じて対応可 ・要補助員	P 11
4	高麗川の虫たち	3～6	45分	○	○	○	○		P 12
5	公害を知ろう！	5～6	45分	○	○	○	○		P 13
6	バードウォッチング	3～6	45分～90分	○	○	○	○	・実施場所は相談に応じて対応可	P 14

(2) 中学生用プログラムメニュー

No.	プログラム名	学 年	時間	場 所		対 象		備考	該当ページ
				いすみ	学校	クラス	学年		
1	坂戸市の環境	1～3	50分	○	○	○	○		P 15
2	ごみについて考えよう！	1～3	50分	○	○	○	○		P 16
3	身近な公害 in 坂戸	1～3	50分	○	○	○	○		P 17

(3) 小・中学生共通プログラムメニュー

No.	プログラム名	学 年	時間	場 所		対 象		備考	該当ページ
				いすみ	学校	クラス	学年		
1	牛乳パックdeはがき (リサイクルはがき作り)	小3～6 中1～3	60分	○	○	○		・要補助員	P 18
2	犬や猫の正しい接し方	小1～6 中1～3	45分	○	○	○	○		P 19

(4) 施設見学メニュー

市内の環境関連施設の見学ができます。※申し込みは、直接見学を希望する施設へお願いします。

見学施設	時間	学年	時期	対象	内容
西清掃センター (TEL：281-3575)	60分	小学校中・高学年 中学生	いつでも	1回の見学で 40人程度	・施設の説明、見学
石井水処理センター (TEL：283-1101)	60分	小学校中・高学年 中学生	いつでも	クラス・学年	・施設の説明、見学 ※処理場内工事実施 中のため事前の問い 合わせをお願いします。
坂戸地区衛生組合 (TEL：283-3561)	90分	小学校中・高学年 中学生	要相談	クラス	・し尿処理の現状と 施設の説明 ・施設の見学

(5) 外部講師派遣プログラムメニュー

講師を学校に派遣して行うプログラムです。※申し込みは、環境学館いすみへお願いします。

プログラム名	時間	学年	時期	対象	講師
体験しよう！クリーンエネルギー 「天然ガス」 ＝エネルギーと環境問題＝ 【天然ガスの基礎知識と-196℃ 冷熱実験】	45～ 90分	小学校中・高学 年 中学生	要相談	クラス・学年	坂戸ガス株式会社
あかりのエコ教室 ～自分たちでできるあかりの省エネ～ 詳細はP20を参照下さい。	45分	小学校4～6年	いつでも ※できる限り 3か月前まで に連絡	クラス	パナソニック(株) エレクトリックワー クス社

※留意点

- 備考欄に「要補助員」と記載のあるプログラムは補助する人をお願いする場合があります。
- 対象人数で「クラス」は40人以内、「学年」は100人程度を目安とします。
人数については調整いたしますのでご相談ください。

2-4 小学校の関連教科及び単元に係る環境教育プログラム一覧

環境教育プログラムは、生活科・総合的な学習の時間だけではなく、理科や社会科の単元（教科書の内容）に合わせて活用いただけます。

学 年	教 科	単 元	プログラム名
1・2年	生活科	『なつがやってきた』 『生きものとなかよし』 『たのしいあきいっぱい』 『ふゆをたのしもう』 『生きものなかよし大作せん』	・ 生き物自然観察
3年	理 科	『生き物をさがそう』 『チョウを育てよう』 『たねをまこう』 『こん虫のかんさつ』	・ 生き物自然観察 ・ 高麗川の虫たち
4年	理 科	『春の生き物』 『夏の生き物』 『秋の生き物』 『冬の生き物』 『生き物の1年間』	・ 生き物自然観察 ・ 高麗川の虫たち ・ バードウォッチング
	社会科	『ごみのしよりと活用』	・ 環境って何？ ・ ごみについて学ぼう！ ・ 牛乳パック de はがき
5年	社会科	『国土の環境を守る』 （自然災害から人々を守る） （森林とわたしたしのくらし） （環境とわたしたちのくらし）	・ 環境って何？ ・ 公害を知ろう！
6年	理 科	『生物どうしのつながり』 『自然とともに生きる』	・ 環境って何？ ・ 公害を知ろう！ ・ バードウォッチング
	社会科	『世界のなかの日本とわたしたち』 （世界がかかえる問題と日本の役割）	・ 環境って何？ ・ 公害を知ろう！
	家庭科	『クリーン作戦で快適に』 『持続可能な社会のために』 （生活と環境の関係を考えよう） （生活と資源の関係を考えよう）	・ ごみについて学ぼう！

2-5 小学生用プログラムメニュー



環境って何？ (環境問題入門)



対象学年	1～6年	時 間	45分	時 期	通 年
実施場所	環境学館いずみ・学校		担当課	環境政策課	
対象人数	クラス単位（40人以内）・学年				
用意するもの	筆記用具				
ねらい	「環境」とはということなのかを、過去から未来、さらに身近なものから地球全体までの事について学習し、環境問題全般について考えます。				
進め方	≪20～30分≫ ①パワーポイントによりクイズを織り交ぜながら、環境全般について広く学びます。 ・環境とは何か ・環境問題にはどのようなものがあるか ・環境問題の対策（自分たちにもできること） ◎具体的な環境の種類 ①地球温暖化 ②資源消費 ③省エネルギー ④ごみの発生 ⑤リサイクル ⑥大気 ⑦水質 ⑧動植物 など ※地球温暖化を中心に環境問題全般について説明していきます。 ≪15分≫ ②環境に関するDVDを視聴し学習します。 				
学校での教科に関連する単元(参考)	4年生：社会科『ごみのしよりと活用』 5年生：社会科『国土の環境を守る』（森林とわたしたしの暮らし）、（環境とわたしたちの暮らし） 6年生：理科『生き物どうしのつながり』、『自然とともに生きる』 6年生：社会科『世界のなかの日本とわたしたち』（世界がかかえる問題と日本の役割）				
特記事項	・学校で行う場合は、暗幕と電源が取れる教室の準備及び長机2台、パソコン、プロジェクター、スクリーン、スピーカーの用意をお願いします。				





ごみについて学ぼう！



対象学年	3～6年	時 間	45分	時 期	通 年
実施場所	環境学館いずみ・学校		担当課	廃棄物対策課	
対象人数	クラス単位（40人以内）・学年				
用意するもの	筆記用具				
ねらい	・なぜごみを減らすのか、なぜ分別する必要があるのかを学びます。 ・ごみの減量や資源化をするために自分にどんなことができるかを一緒に考えます。 ・実際にごみの分別を体験し、ごみ問題を身近に感じてもらいます。				
進め方	■ ごみ・資源物の講話(約20分) 次の項目を中心とし、パワーポイント資料をプロジェクターで投影して説明します。 時折クイズを交えながら、楽しく学習します。 ・坂戸市内で発生するごみの量と内訳 ・ごみを少なくすること、資源を大切にすることの意味 ・坂戸市の分別区分及び処理の流れ ・食品ロス（まだ食べられるのに捨てられている食品）について ・自分たちに何ができるか考えよう  ■ ごみ・資源物の分別体験ゲーム(約20分) ごみ・資源物のサンプルを使用した分別の体験ゲームを行います。 最後に解説を含めた答え合わせを行い、分別の仕方や重要性を楽しく学びます。  ※ 内容は一部変更になることがありますので、御了承ください。 ※ 重点的に説明してほしい内容があれば御相談ください。				
学校での教科に関連する単元(参考)	4年生：社会科『ごみのしよりと活用』 6年生：家庭科『クリーン作戦で快適に』、『持続可能な社会のために』（生活と環境の関係を考えよう）、（生活と資源の関係を考えよう）				
特記事項	・学校で行う場合は、暗幕と電源が取れる教室の準備及び長机2台（分別体験を行う場合は更に3台）、プロジェクター、スクリーン、スピーカーの用意をお願いします。				



生き物自然観察



対象学年	1～4年	時間数	90分	時 期	通 年
実施場所	いすみ付近の河川敷 各学校敷地内または付近で自然観察 が可能な場所		担当課	環境学館いすみ	
対象人数	クラス単位（40人以内）・学年				
用 意 す る もの	筆記用具、野外活動用の服装 ※天候によっては、飲み物を用意されることをお勧めします。				
ねらい	実際に野外に出て自然を観察することにより、生き物への関心を深めます。 また、身近な自然の中にも多様な生き物が生息していることを、観察を通して学びま す。				
進め方	①自然観察の方法について説明します。 ②採集の方法について説明します。 ③班に分かれて実際に観察します。 ④採集した生き物を観察し、記録をとります。 ⑤観察が終わったら採集した生き物を逃がします。 [具体例] 野原の昆虫しらべ ・モンシロチョウと他のチョウの見分け方。 ・テントウムシのなかまを調べます。 ・コオロギの見つけ方。 川の生き物しらべ ・川にすむ様々な生き物（魚やエビ、水生昆虫など）がどのような場所で見つかるか実際に調べてみます。 ・川辺で見られるトンボのなかまを調べます。 田んぼの生き物しらべ ・カブトエビやホウネンエビなどの「生きている化石」を見ます。 ・アメリカザリガニやカエルなど田んぼで見られる様々な生き物を観察します。 ・イナゴやコオロギなど田んぼで見られる昆虫を調べます。 ※ 植物や草花などを観察するプログラムもできます。 				
学校での 教科に関 する単元 (参考)	1・2年生：生活科『なつがやってきた』、『生きものとなかよし』、 『たのしいあきいっぱい』、『ふゆをたのしもう』、 『生きものなかよし大作せん』 3年生：理科『生き物をさがそう』、『チョウを育てよう』、 『たねをまこう』『こん虫のかんさつ』 4年生：理科『春の生き物』、『夏の生き物』、『秋の生き物』、 『冬の生き物』、『生き物の1年間』				
特記事項	・状況に応じて補助員が必要となります。（クラス単位で3～4名程度） ・雨天の場合は、中止となります。				





高麗川の虫たち



対象学年	3～6年	時 間	45分	時 期	通 年
実施場所	環境学館いずみ・学校		担当課	環境学館いずみ	
対象人数	クラス単位・学年				
用 意 す る もの	筆記用具				
ねらい	身近な自然（市内高麗川）の中にも、さまざまな生き物が生息していることを、スライドを見ながら学びます。				
進め方	四季を通じて高麗川で観察できる昆虫を、蝶やトンボを中心にスライドで紹介します。  				
学校での教科に関する单元（参考）	3年生：理科『生き物をさがそう』、『チョウを育てよう』、『たねをまこう』、『こん虫のかんさつ』 4年生：理科『春の生き物』、『夏の生き物』、『秋の生き物』、『冬の生き物』、『生き物の1年間』				
特記事項	・学校で行う場合は、暗幕と電源が取れる教室の準備及び長机2台、プロジェクター、スクリーン、スピーカーの用意をお願いします。				



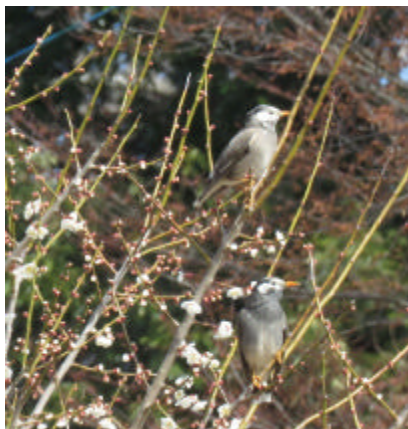
公害を知ろう！



対象学年	5～6年	時間数	45分	時 期	通 年
実施場所	環境学館いずみ・学校		担当課	環境政策課	
対象人数	クラス単位（40人以内）・学年				
用意するもの	筆記用具				
ねらい	「大気汚染」や「水質汚濁」、「騒音」などの公害について学習し、自分達ができる環境保全対策を考えます。				
進め方	①パワーポイントにより、クイズを織り交ぜながら公害について学びます。 【公害の種類】 ・大気汚染（光化学スモッグ、PM2.5 等） ・水質汚濁（河川の水質 等） ・騒音、振動 ・土壌汚染 ・地盤沈下 ・悪臭 ※大気汚染、騒音に焦点を絞って学びます。 ②市内で行っている環境調査結果を基に坂戸市の現状を学びます。 ③騒音計等の実施を用いた体験学習をします。 ④自分達ができる環境保全対策を考えます。 				
学校での教科に関連する単元(参考)	5年生：社会科『国土の環境を守る』（森林とわたしたしのくらし）、 （環境とわたしたちのくらし） 6年生：理科『生き物どうしのつながり』、『自然とともに生きる』 6年生：社会科『世界のなかの日本とわたしたち』 （世界がかかえる問題と日本の役割）				
特記事項	・学校で行う場合は、暗幕と電源が取れる教室の準備及び長机2台、パソコン、プロジェクター、スクリーン、スピーカーの用意をお願いします。				



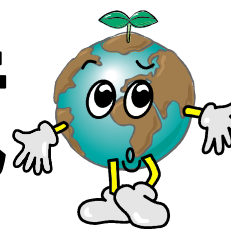
バードウォッチング

対象学年	3年以上	時間数	45～90分	時 期	通 年
実施場所	いずみ付近の河川敷、または、各小学校の周囲 室内も可能		担当課	環境学館いずみ	
対象人数	クラス単位（40人以内）・学年 またはクラブ				
用意するもの	持っている児童は双眼鏡（いずみ貸出可）・筆記用具				
ねらい	野鳥観察を通して、身近な自然に関心を持つことで、坂戸市の自然の豊かさを知り身近に多様な生き物が生息していることに気付きます。 坂戸市の自然の豊かさに気付く、観察する楽しさを知る。				
進め方	①野鳥トランプ又は写真を使って、見たことがある野鳥を教え合う。 ②野鳥がどのような場所で生活しているかを知る。 ③野鳥の探し方を考える。 ＊サイトの野鳥の声を聞く ＊カラス、ハト、スズメの大きさを確認する。 ③室内又は屋外で双眼鏡の使い方の練習 ④野外で野鳥観察 ＊観察できる野鳥 ムクドリ、ヒヨドリ、キジバト、ハシブトガラス、シジュウカラ、スズメなど 季節の野鳥 春夏：ツバメ、冬：ツグミ、ジョウビタキ ⑤観察した野鳥をカードにまとめる。 45分は③まで 90分⑤野外観察まで 雨天時は③まで室内で可。延期も可  メジロ  ムクドリ				
学校での教科に関連する単元(参考)	3年 理科 「生き物をさがそう」 4年 理科 「春の生き物」「夏の生き物」「秋の生き物」「冬の生き物」 「生き物の一年間」 6年 理科 「生き物どうしのつながり」「自然とともに生きる」				
特記事項	・学校で行う場合は、暗幕と電源が取れる教室の準備及び長机2台、パソコン、プロジェクター、スクリーン、スピーカーの用意をお願いします。				

2-6 中学生用プログラムメニュー



坂戸市の環境



時 間	50分	時 期	通 年
実施場所	環境学館いずみ・学校	担当課	環境政策課
対象人数	クラス単位（40人以内）・学年		
用意するもの	筆記用具		
ねらい	坂戸市の環境について体系的に整理し、現在の状況や施策等について、環境基本計画を基に講義を行います。そこで自分達と坂戸市の環境との関わりについて考えます。		
進め方	パワーポイントを使って、「坂戸市の環境」について学びます。 ①SDGs の概要について（3 分程度） ②坂戸市の環境の状況、施策や対策などについて（45 分程度） 脱炭素社会：再生可能エネルギー、省エネルギー、脱炭素まちづくり等 循環型社会：4R、食品ロス、ごみ処理等 自然・みどり、生物多様性：自然環境の保全、生物多様性の保全等 安全・安心：公害防止、身近な生活環境問題、気候変動適応対策等 環境教育・学習、情報発信：環境活動、環境情報の発信等		
特記事項	・学校で行う場合は、暗幕と電源が取れる教室の準備及び長机2台、パソコン、プロジェクター、スクリーン、スピーカーの用意をお願いします。		



ごみについて考えよう



時間	50分	時期	通年
実施場所	環境学館いずみ・学校	担当課	廃棄物対策課
対象人数	クラス単位（40人以内）・学年		
用意するもの	筆記用具		
ねらい	・なぜごみを減らすのか、なぜ分別する必要があるのかを学びます。 ・ごみの減量や資源化をするために自分にどんなことができるかを一緒に考えます。		
進め方	パワーポイントを使って、「ごみ・資源物の講話」を行います。 ・坂戸市内で発生するごみの量と内訳 ・ごみを少なくすること、資源を大切にすることの意味 ・坂戸市の分別区分及び処理の流れ ・ごみ処理に係る経費について ・食品ロス（まだ食べられるのに捨てられている食品）について ・4Rについて ・ごみの排出者・処理者それぞれの役割について ・坂戸市のごみ減量、資源化の取組 ・地域での様々な取組について <オプション> ごみ問題等を身近に感じてもらうための体験型プログラムとして、「ごみ・資源物の分別体験」の実施が可能です。最後に解説を含めた答え合わせを行い、分別の仕方やその重要性を学びます。ニーズに合わせてお申し込みください。 ※ 内容は一部変更になることがありますので、御了承ください。 ※ 重点的に説明してほしい内容があれば御相談ください。		
特記事項	・学校で行う場合は、暗幕と電源が取れる教室の準備及び長机2台（分別体験を行う場合は更に3台）、プロジェクター、スクリーン、スピーカーの用意をお願いします。		



身近な公害 in 坂戸



時 間	50分	時 期	通 年
実施場所	環境学館いずみ・学校	担当課	環境政策課
対象人数	クラス単位（40人以内）・学年		
用意するもの	筆記用具		
ねらい	「大気汚染」や「水質汚濁」、「騒音」などの公害について学び、自分達ができる環境保全対策を考えます。		
進め方	①パワーポイントにより、クイズを織り交ぜながら、公害について一般的な知識を学びます。 【公害の種類】 ・大気汚染（光化学スモッグ、PM2.5 等） ・水質汚濁（河川水質 等） ・騒音 ・振動 ・土壌汚染 ・地盤沈下 ・悪臭 ※それぞれの公害において、「〇〇について学びたい」という具体的な要望があれば事前に御相談ください。 ②市内で行っている環境調査結果を基に坂戸市の現状を学びます。 ③これまでの学習をふまえて、自分達ができる環境保全対策を考えます。  		
特記事項	・学校で行う場合は、暗幕と電源が取れる教室の準備及び長机2台、パソコン、プロジェクター、スクリーン、スピーカーの用意をお願いします。		



牛乳パックd e はがき (リサイクルはがき作り)

対象学年	小学3～6年 中学生	時間数	60分	時 期	通年
実施場所	環境学館いずみ・学校 (機材一式貸出可)		担当課	環境学館いずみ	
対象人数	クラス単位(40人以内)				
用意するもの	先生：そうきん 児童：牛乳パック 1人200ml3個(事前準備参照)、硬い下敷き、 ※模様付き紙・葉や花びらを混ぜるとオシャレなはがきができます。 ＜注意＞葉や花びらはそのままでは使えません。押し花を作る要領で広げておきます。模様付き紙はイラストの線に沿って切っておきます。				
ねらい	使い終わったものでも工夫次第で、有効な材料として再利用できることを学び、資源を有効に使うためにも「物を最後まで使う」「使い終わったらリサイクルする」ことの大切さを考えます。				
進め方	(学校での事前準備) ①牛乳パックを良く洗い、きれいに切り開きます。 ②30分程度煮て冷まします。(10日程度水につけるだけでもよい。) ③裏と表のビニールをはがし、小さくちぎります。(爪の大きさ程度) ＜注意＞ ビニールが残っていたり、牛乳パックが細かくちぎれていないと作業ができません。				
	①テキストにより「作り方」や「リサイクル」、「緑の大切さ」について説明します。 ②ちぎった牛乳パックひとつかみ程度、水[ミキサー容器7分目程度]をミキサーに入れ、2分間かくはんします。 ③容器にあらかじめ水を入れ、②を流し込みます。 ④紙すき枠を底まで静かに入れ、ゆっくりと上げます。 ⑤水から上げて、枠をはずし、板と網ではさんで水を絞り出します。 ⑥板と網を外し吸水マットに載せて水分を吸い取ります。 ⑦手ぬぐいではさみ、アイロンをあてて、ある程度水分が取れたら網から外し、硬い下敷きの上に乗せ、自然乾燥して出来上がりです。 ※目安は1人2枚となります。 ※完成後は1～2日、日陰で乾燥させた後、押し花をするときのように上に重しを乗せて1週間ほど乾燥させてください。				
学校での教科に関連する単元(参考)	4年生：社会科「ごみのしよりと活用」				
特記事項	・水道が必要なので、学校で行う場合は、理科室または調理室で行います。 ・小学校の場合は補助員が必要となります。(クラス単位で3～4名程度) ・牛乳パックの両面のビニールをしっかりと剥がしてください ・機材のみの貸し出しも可能です。※借用書あり(26ページ) (ミキサーの取り扱いには十分注意してください。)				





犬や猫の正しい接し方



対象学年	1～6年 中学生	時間数	45分	時 期	通 年
実施場所	環境学館いずみ・学校		担当課	環境政策課	
対象人数	クラス単位（40人以内）・学年				
用意するもの	筆記用具				
ねらい	犬や猫の正しい飼い方や生活環境への影響について学習し、犬や猫への適切な接し方を身に付けてもらいます。				
進め方	彩の国動物愛護推進員（坂戸いきものがかり）を講師として招きます。 ①正しい犬の飼い方 ②正しい猫の飼い方 ③正しいのら猫への接し方 ・のら猫へのエサやり ・TNR 活動 ・地域猫活動 TNRとは  捕獲して Trap ▶ 不妊手術をし Neuter ▶ 元の場所に戻す Return ©公益財団法人どうぶつ基金				
特記事項	・学校で行う場合は、暗幕と電源が取れる教室の準備及び長机2台、パソコン、プロジェクター、スクリーン、スピーカーの用意をお願いします。				



あかりのエコ教室

～自分たちでできるあかりの省エネ～

対象学年	4～6年生	時間	45分	時 期	通 年
実施場所	各学校の理科室		担当課	パナソニック（株） エレクトリックワークス社	
対象人数	クラス単位（40名以内）				
用意するもの	筆記用具				
ねらい	実験を通じて、「エコ・省エネ」「電気」についての理解を深めます。				
進め方	<10分程度> 『エコとは何？』と問いかけ、～地球や環境にやさしいこと～と大きな意味であることを理解いただく。 3Rや省エネなどは、エコの中に含まれる、という事。 <20分程度> 実験①・・・白熱灯・けい光灯・LED それぞれの電球は、 「手回し発電機を、何人で回したときに点灯するか」を体感。 実験②・・・同上3種類の電球の、電気の量（ワット）を調べます。 同時に、各電球の熱さや点灯する速さ を観察し、違いを理解いただきます。 <15分程度> 実験した内容の発表。手回しの必要人数・熱さ・ワット数にどんな関連があるかを考察。その後、3種類の電球の<光るしくみ>を説明。 白熱灯は何故こんなに熱いの？LEDは何故熱くならないの？ など。 最期のクイズは各電球の寿命のお話し。冒頭のリ・デュース（3R）の内容と合致させる。				
特記事項	■各机に100Vコンセントが必要なため、理科室をお願い致します。 ■設営・撤収用に、授業前後の時限の理科室の確保をお願い致します。 ■PC及びデータは持参いたしますので、スクリーン&プロジェクター、または50型以上のTVをお願い致します。（接続コード含む）				

3 環境関連情報



3-1 環境学館いずみの概要

1 名称(由来)

- ◆学習の場として知識が泉のようにあふれるイメージと所在が泉町であることから決定（市民からの公募）。

2 建物の特徴

- ◆太陽光発電システム
最大発電電力・・・10kWh 南側屋根に84枚設置（シャープ製）
用 途・・・空調、雨水貯水タンクくみ上げポンプに利用（200V）
余剰電力・・・東京電力へ売電
- ◆雨水再利用システム
貯水タンク・・・20m³
用 途・・・トイレ洗浄水、散水
- ◆古民家の建築材料の活用
利用場所・・・展示室（梁・柱）
- ◆再生レンガの活用
再 生 物・・・下水汚泥再生レンガ
利用場所・・・ホール、情報コーナーの床
使用面積・・・103m²（約6,900個）



3 施設の運営

市民参加の運営を目指し、市民から募ったいずみ運営ボランティアを中心に運営を行っています。

- ◆環境ボランティア活動内容・・・いずみで行う各種講座、イベント、環境教育プログラムなどの企画、運営及び講師、補助などに活躍しています。統率

4 展示

展示室において環境に関するパネル等を常設展示しています。坂戸に生息する魚、鳥、昆虫等（生体・写真）、ごみ減量・リサイクル、再生可能エネルギー、生ごみ処理器、高麗川の源流、ミツバチプロジェクトなど

5 情報コーナー

環境に関する情報提供を行うために設置しています。

- ◆図 書 蔵書数 約600冊（貸出し期間2週間）



6 講座

自然環境、ごみ減量・リサイクル、再生可能エネルギーなど環境に関する各種講座や実習などを開催しています。

◆講座内容(令和7年度予定)

講座名	内 容	開催回数 (予定)	定員 (1回)
廃食油リサイクル 粉石けん作り	廃食油で作るリサイクル粉石けんの作り方	年6回	5人
理科教室	実験を通して毎月テーマを変えた環境問題を学ぶ	年9回	16人
自由研究教室	夏休みの自由研究のヒント	年2回	16人
パック de セッケン	牛乳パックを使った廃食油リサイクル固形石けん作り	毎月1回	15人
布ぞうり教室	古布を裂いて作る布ぞうり	年1回	15人
自然観察教室	高麗川にすむ生き物の採集と観察	年4回	20人
自然工作	自然素材を使った工作	年1回	16人
裂き織り体験	織機で、裂いた古布を織り作品に仕上げる	年2回	8人
いずみ自然塾	毎月テーマを変えて、清流高麗川や城山などを観察し、さまざまな自然の魅力を発見します。	年12回	20人
えひめA1-2を作ろう	身近な食品から環境浄化に役立つ微生物を作り、活用方法を学びます。	毎月1回	10人
生ゴミ堆肥作り	米ぬかを使った生ゴミ堆肥作り	年5回	10人
ハニーウォーク	蜜源を散策しながら生き物と私たちの暮らしの関わりを考える。	年1回	20人
教えてミツバチ先生	ミツバチの生態を学ぶ。	年1回	20人
生活環境講座	環境問題について考える。	年2回	16人

※講座内容は変更になる場合があります。

7 イベント

環境問題を多くの人に関心を持ってもらうためのイベントをボランティアスタッフが主体となって開催しています。

◆いずみ DAY～環境のことを考えよう～

開催予定日・・・令和7年6月8日(日)

内容・・・使用サイクルの短い子ども用品を中心としたフリーマーケット、体験コーナー(自然素材の工作など)、花のフリーマーケット、坂戸市産ハチミツの販売

◆環境楽習まつり(主催：NPO 法人環境楽習サイエンス)

開催予定日・・・令和7年8月24日(日)

内容・・・4種類の工作体験教室、顕微鏡観察、自然のおもちゃ遊び、折り紙

8 古本市

4R推進運動（リユース：再利用・再使用）の一環として、家庭で不要となった本を必要とする人に提供する場を設けています。

◆開催予定日・・・令和8年1月25日（日）

問合せ先

〒350-0231 坂戸市泉町三丁目 25 番地 1

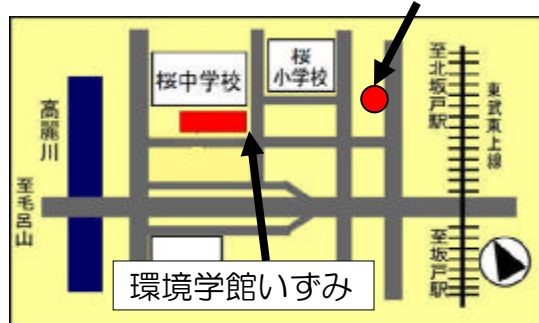
坂戸市環境学館いずみ

TEL・FAX 049-284-7115

開館時間：午前 9 時 30 分～午後 5 時 15 分

休館日：月曜日、祝日及び年末年始(12/29～1/3)

バス停留所(桜小学校入口)



3-2 こどもエコクラブについて

こどもエコクラブ事業は、次世代を担う子どもたちが行う環境学習や環境保全活動を支援することにより、人間と環境との関わりについて幅広い理解を深め、環境を大切に思う心を育成し、もって、環境に対する人間の責任と役割を理解し、その環境保全に参加する態度及び環境問題解決に資する能力を育成することを目的としています。

「こどもエコクラブ」は、平成7年度から環境省の事業として開始し、実施しているもので、地域における子供たちの自主的な環境活動や実践活動を支援するものです。

こどもエコクラブってなに？

「こどもエコクラブ」は、小・中学生なら誰でも参加できる環境活動のクラブです。

活動の期間は？

毎年4月からの1年間ですが、年の途中でも参加できます。

クラブではどんなことをするの？

子どもたちの興味や関心に基づいて、自然観察・調査やリサイクル活動など、地域の中で身近にできる地球にやさしい活動に自由に取り組みます。

クラブを作りたい、参加したい時は？

ひとつのクラブは、「一緒に活動をする仲間」と「活動を支える大人（サポーター）」で作ります。

構成形態は様々で、学校のクラスやクラブ、近所の友達同士、兄弟姉妹などでも作れます。

また、一人だけでも参加ができるように「坂戸市環境学館いずみ」にこどもエコクラブ（アースフレンズ）があります。

会費はかかるの？

登録料、年会費等の費用はかかりません。

申込はどこにすれば良いの？

環境学館いずみにお問い合わせください。（TEL：284-7115）

環境学館いずみのエコクラブ「アースフレンズ」に加入したい場合は、いずみへお問い合わせください。



いずみエコクラブ「アースフレンズ」

※その他の詳しい内容は：

公益財団法人日本環境協会 こどもエコクラブ全国事務局

〒101-0032 東京都千代田区岩本町1-10-5 TMMビル5階

電話：03-5829-6359 FAX：03-5829-6190

メールアドレス：j-ecoclub@jeas.or.jp



(様式1)

FAX: 284-7115

Mail: sakado44@city.sakado.lg.jp

坂戸市環境教育プログラム申込書

年 月 日

坂戸市環境学館いずみ館長 あて

学校長

下記のとおり、環境教育プログラムによる環境教育を実施したいので申し込みます。

記

プログラム名			
実施日時	年 月 日・午 時 分～午 時 分(分間)		
学 年	年 組(人)	教 科	
担任教諭 (責任者)		補助員数	人
実施場所 (該当するものに○)	環境学館いずみ 学 校 その他_____  いずみへの交通手段 ア 徒歩 イ バスを希望(配車場所: _____)		
児童生徒へ教 えてほしい 具体的な内容	※資料があれば一緒に付けてください。		
その他	プログラム実施にあたっての留意点・要望事項等		

(様式2)

FAX: 284-7115

Mail: sakado44@city.sakado.lg.jp

坂戸市環境教育プログラム実施報告書

年 月 日

坂戸市環境学館いずみ館長 あて

坂戸市教育委員会 学校教育課長 あて

学校長

環境教育プログラムによる環境教育を実施したので報告します。

記

プログラム名			
実施日時	年 月 日・午 時 分～午 時 分(分間)		
学 年	年 組 (人)		
担任教諭 (責任者)		補助員数	人
効果・評価	(児童生徒の反応・理解度・効果等を記載してください)		
改善・要望	(プログラムをより良くするために気付いた点を記載してください)		

FAX: 284-7115

Mail: sakado44@city.sakado.lg.jp

パックdeはがき物品借用申請書

年 月 日

坂戸市環境学館いずみ館長 あて

学校長

下記の物品について借用したいので申請します。

記

借 用 期 間	年 月 日 ~			年 月 日
責 任 者 (教員名)				
使 用 人 数 (予 定)				
品 目	数 量	備 考		
ミキサー				
アイロン				
ざる				
木わく				
板				
ふね				
あみ				
水のり				
吸水用スポンジ				
手ぬぐい				
固い下敷き				

※ 数量については使用人数を参考にいずみが記載します。

返却日 ____年__月__日

返却確認者

氏名_____



坂戸市環境教育プログラム (令和7年度版)

◆発行日／令和7年3月

◆発行・編集／坂戸市 環境産業部 環境学館いずみ

坂戸市 教育委員会 学校教育課

〒350-0231 坂戸市泉町3-25-1

TEL：049-284-7115

FAX：049-284-7115

URL：<https://www.city.sakado.lg.jp>

MAIL：sakado44@city.sakado.lg.jp

この冊子は資源の有効利用のため、エコマーク認定の再生紙を使用しています。